

都市再生整備計画 事後評価シート
中心市街地・西部地区

平成27年3月

北海道東川町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	東川町	地区名	中心市街地・西部地区(ちゅうしんしがいち・せいぶちく)			面積	328ha		
交付期間	平成22年度～平成26年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	1,194百万円	国費率	0.40				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】:西10号南道路、1丁目道路、西3号道路 【地域生活基盤施設】:西部多目的広場								
		提案事業	【事業活用調査】:まちづくり検討調査事業								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】:1丁目道路、西3号道路 【地域生活基盤施設】:西部多目的広場	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業									
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】14丁目北道路、南4条道路、西2号西2丁目道路、西3号南2丁目道路、西2号道路(歩道)、西3号南3条道路(歩道)、西6号1丁目道路、公園3丁目道路【高質空間形成施設】グリーンヴィレッジ遊歩道緑化施設【高次都市施設】地域交流センター	目標をより良く達成するため。			影響は軽微である。				
		提案事業	【地域創進支援事業】:交流広場、地域交流センター、モニュメント事業	目標をより良く達成するため。			影響は軽微である。				
交付期間の変更	当初変更	平成22～26年度 変更なし	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	定住人口	人	5,162	H21	5,239	H26	○	あり なし	計画的な遊休地の宅地化、それに伴う道路交差部の整備により景観を向上させた。また、自給自足型施設を推進することにより定住者の満足度を向上させることができた。	H27年4月
	指標2	コミュニティ施設の利用者数	人/年	28,279	H20	28,700	H26	○	あり なし	施設周辺の美観を高めることで、大規模なイベントが開催でき、交流人口の増加を促すことができた。また、写真の取組として緑力のグレードアップが図られ景観の美観性が向上した。	H27年4月
	指標3							あり なし			
	指標4							あり なし			
	指標5							あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1										
	その他の数値指標2										
	その他の数値指標3										
	その他の数値指標4										
4)定性的な効果発現状況	・指標の目標値を全て達成し事業効果があった。特にコミュニティ施設の利用者は、高齢者の軽スポーツの普及等により大幅に数値が増加した。・景観に配慮された緑空間のある美しい市街地形成のため地域住民の活動により実現できた。グリーンヴィレッジでは、住民主導によるガーデニング講習会が開催されるなど、美しい市街地形成に対する地域住民の意識向上がみられるようになった。・中心市街地が整備されたことで、町外から市街地へ店舗を出店する商業者も増加している。										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング	毎年度にモニタリング実施。 ①事業進捗の確認、②指標の達成見込み	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	・町の重要課題である指標のため、次期計画でもモニタリングを実施する。						
	住民参加プロセス	・街なか活性化推進協議会(事業進捗の確認)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	・都市再生整備計画を検討する上で住民の意見を聞ける組織であることから今後も継続する。						
	持続的なまちづくり体制の構築		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								